



2013年6月期事業報告会資料
株式会社ブロードバンドタワー
2013年9月20日

目次



1. 2013年6月期連結決算について
2. 2020年へ向けてのICTトレンド
3. 第2創業期へ向けての事業展望

1. 2013年6月期連結決算について

2013年6月期 通期連結決算ハイライト

連結売上高 **23,528 百万円** (前期比 +7,717百万円、+48.8%)
(※公表値：22,900百万円)

連結営業利益 **986 百万円** (前期比 +558百万円、+130.5%)
(※公表値：860百万円)

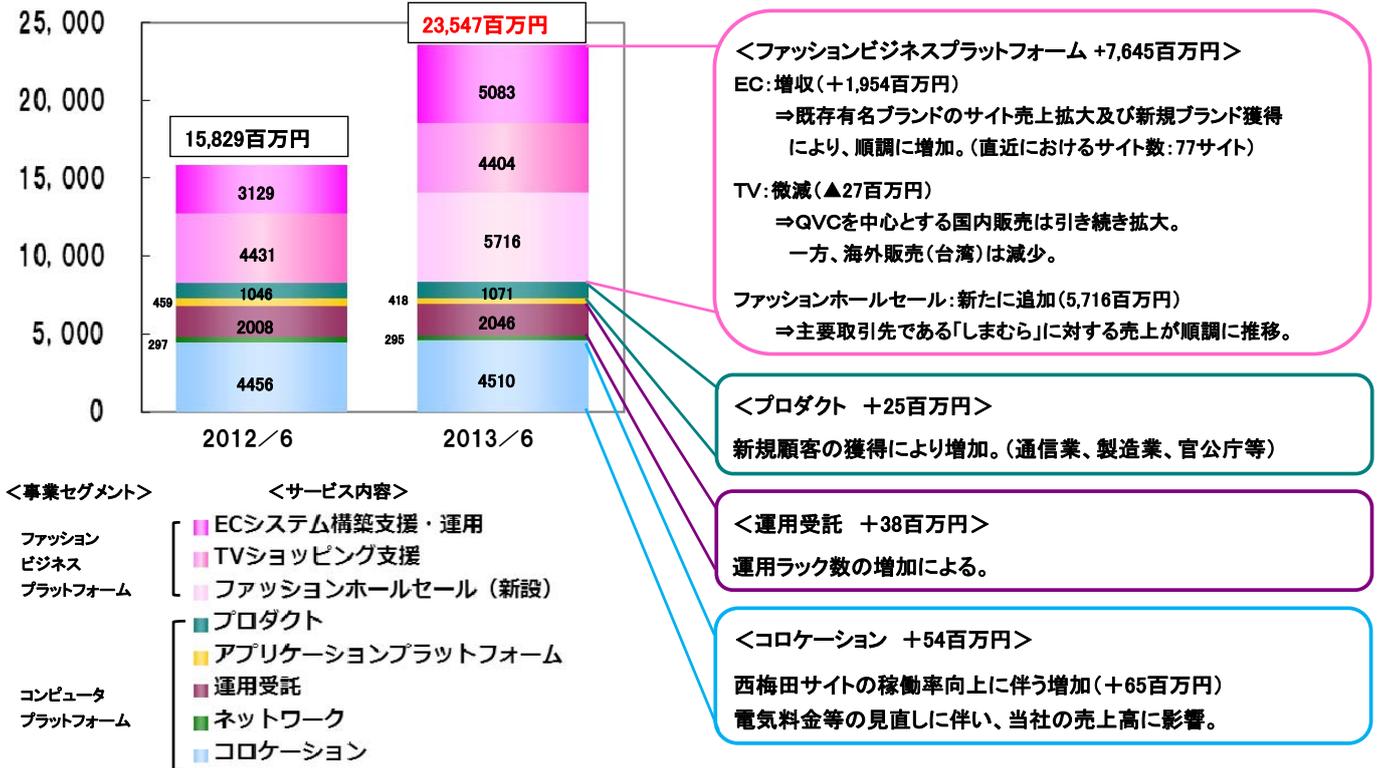
連結経常利益 **845 百万円** (前期比 +435百万円、+106.1%)
(※公表値：720百万円)

連結当期純利益 **293 百万円** (前期比 +281百万円、+2470.8%)
(※公表値：200百万円)

BBFの規模拡大、ブランチ・アウト社の連結子会社により、大幅増収増益

当社セグメントにおけるサービス内容別売上(通期)

※売上高は内部振替調整前の数値にて表記



2014年6月期 業績予想

**2014年6月期は新事業構想に基づく中長期計画の初年度として
成長基調に乗せるための先行投資年度と位置付ける！**

【連結】

売上高 **25,000** 百万円(前期比: +6.3%)
 営業利益 **640** 百万円(前期比: ▲35.1%)
 経常利益 **640** 百万円(前期比: ▲24.3%)
 当期純利益 **240** 百万円(前期比: ▲18.1%)

【個別】

売上高 **8,200** 百万円(前期比: ▲1.7%)
 経常利益 **230** 百万円(前期比: ▲44.8%)
 当期純利益 **140** 百万円(前期比: ▲20.0%)

※決算短信記載のフォーマットに合わせた形のため、営業利益は非開示

<コンピュータプラットフォーム事業>

平成26年6月期中に当社が提供するサービスの一部を既存顧客が解約することに伴い、売上高は減少する見込み。次期以降の成長基調に繋がる既存事業の拡大及び新規事業立ち上げに伴う先行投資等の発生に伴い、利益も減少する見込み。

<ファッションビジネスプラットフォーム>

ランチ・アウトが行うファッションホールセールサービスは期初より売上高に貢献するものの、BBFが行うECシステム構築支援・運営サービスは、既存取引先の顧客都合による解約が発生する見込み。また、アジアを中心とする海外進出への布石となる先行投資等を引き続き行う予定。

**このような状況を踏まえ、当社グループとしては、第2創業期の基本方針である
「既存事業の強化・拡大」及び「新規事業の創出」に向けた活動を行っていく。**

2. 2020年へ向けてのICTトレンド

2020年へ向けての4つのICTトレンド

①新興国における急速な普及

②モバイル・アクセスの急伸

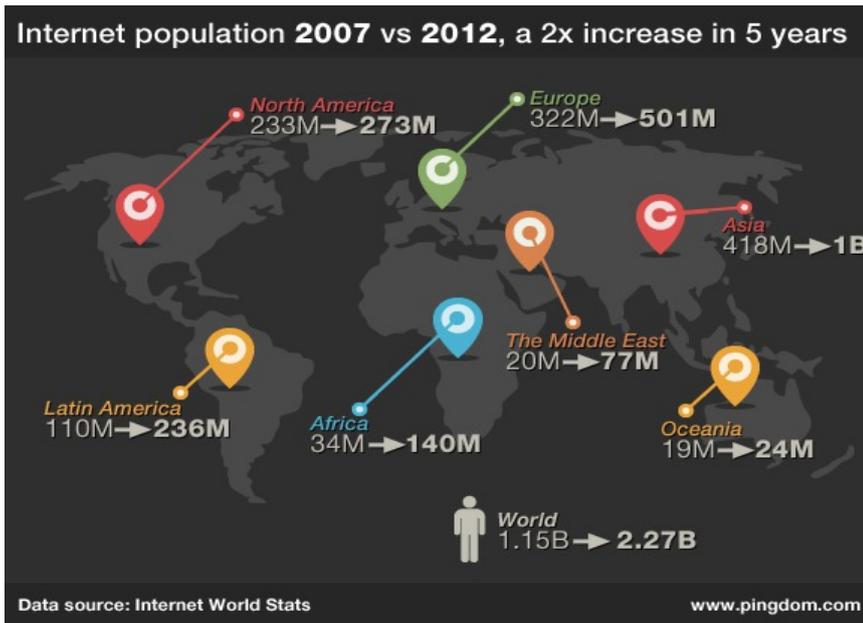
③ソーシャル・メディアの拡大

④スマート・インフラの発展

4つのトレンド：

「新興国・モバイル・ソーシャル・スマート」

①新興国における急速な普及



アフリカ: 3400万から1億4000万へ

- 317%増加

アジア: 4億1800万から10億へ

- 143%増加

欧州: 3億2200万から5億100万へ

- 56%増加

中東: 2000万から7700万へ

- 294%増加

北米: 2億3300万から2億7300万へ

-17%増加

中南米: 1億1000万から2億3600万へ

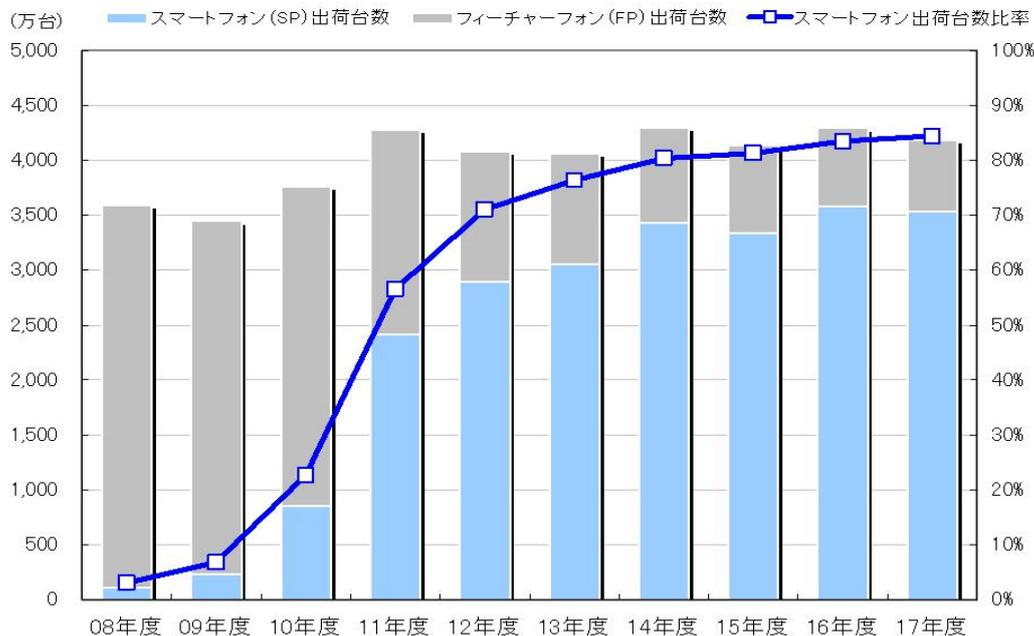
- 114%増加

オセアニア: 1900万から2400万へ

- 27%増加

②モバイル・アクセスの急伸

MM総研】スマートフォン出荷台数の推移・予測（2013年3月予測）



③ソーシャル・メディアの拡大

ソーシャルメディア市場

	2012年実績	2013年以降の予測	ソース(発表時期)
日本(広告収入)	691億円	2015年度に883億円	ミック経済研究所 (2012年12月)
世界(広告収入)	77.2億ドル (約7720億円)	2013年に102.4億ドル 2014年に118.7億ドル	eMarketer (2012年2月)
ソーシャルゲーム	3,870億円	2013年度に4256億円	矢野経済研究所 (2013年1月)
解析サービス	20億円	2013年度に26億円	アイ・ティ・アール (2013年2月)

④スマート・インフラの発展

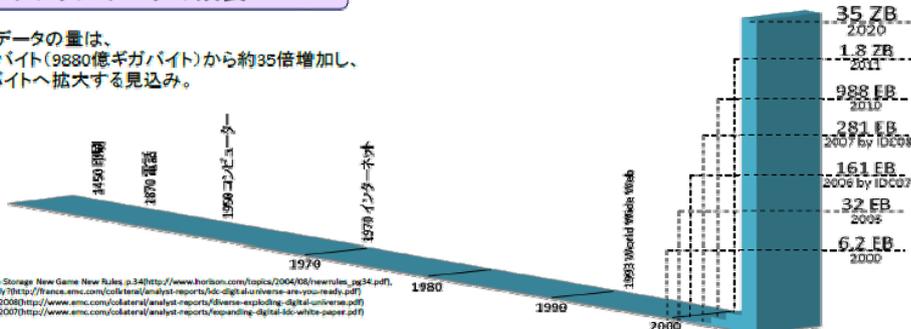


ビッグデータによるデジタルデータ量の増加

- 国際的なデジタルデータの量は、2020年までには約35ゼタバイト※(2010年時の約35倍、DVDメディア約140億枚)へ拡大する見込みである。(※ゼタバイト=10の21乗)
- 多種多量のデータ(ビッグデータ)の利活用によって、新市場・新産業の創出等が期待されている。

10年間のデジタルデータの成長

- 国際的なデジタルデータの量は、2010年時の988エクサバイト(9880億ギガバイト)から約35倍増加し、2020年には約35ゼタバイトへ拡大する見込み。



出典: Horizon Information Strategies, cited from Storage: New Game, New Rules, p.34(http://www.horizon.com/topics/2004/05/newrules_pg34.pdf), IDC, The Digital Universe Decade - Are You Ready? (<http://www.emc.com/collaterals/analyst-reports/idc-digital-universe-are-you-ready.pdf>), IDC, The Diverse and Exploding Digital Universe 2008 (<http://www.emc.com/collaterals/analyst-reports/diverse-exploding-digital-universe.pdf>), IDC, The Diverse and Exploding Digital Universe 2007 (<http://www.emc.com/collaterals/analyst-reports/expanding-digital-ids-white-paper.pdf>)

「ビッグデータ」の定量的価値

- ビッグデータの利活用により、米国ヘルスケアで年間3千億ドル、EU公共セクターで年間2.5千億ユーロ、位置情報データの活用により年間6千億ドルの消費者価値創出が期待されているところ。

50億台の携帯電話が使用(2010年)

米国のヘルスケアでは年間3000億ドルの価値創出が期待(スペインの年間ヘルスケアコストの2倍)

300億のコンテンツが毎月Facebook上で共有

EUの公共セクターでは年間2500億ユーロの価値創出が期待(ギリシアのGDPを超える)

小売の営業利益に60%改善の見込み

全世界において個人の位置情報データを活用することで年間6000億ドルの価値創出が期待

出典: McKinsey Global Institute 『Big data: The next frontier for innovation, competition, and productivity』 (平成23年5月)

『ビッグデータによる新産業・イノベーションの創出』総務省・文部科学省・経済産業省資料より

4つのICTトレンド:

「新興国・モバイル・ソーシャル・スマート」



IPv6



ワイヤレス



アクセスの急増



エネルギーの地産地消



IoT (Internet of Things)



大量非構造化データ



再生可能エネルギー



M2Mの統括管理



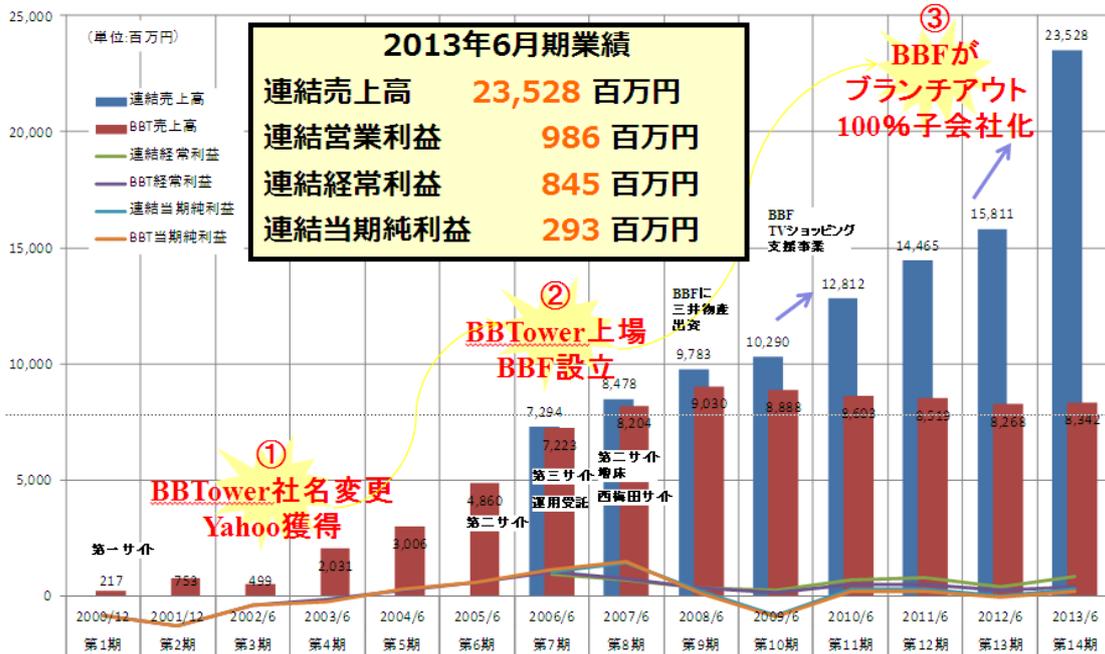
ビッグデータ



スマートグリッド

3-2. BBTowerの非連続的イノベーションと業績推移

- BBTグループは、創業12年間で3つの非連続的イノベーションで成長
- BBTowerは創業以来2007年までDCサイトの増設と共に成長
- 2008年以降はBBFの成長が大きく貢献



BroadBand Tower, Inc. 2013.

17

3-3. 企業理念の刷新

- 第2の創業期を迎え、インターネット上を流通する情報量は、日本のインターネット元年の1994年の約1%から今日では、99%に達する時代。
- 背景は、ソーシャルメディアによりインターネット利用者自身による発信と社会全体に設置が進むセンサー・機器から発信されるM2M通信の進展。
- ポータルサイトへのコンピュータプラットフォームの提供に留まらずビッグデータ時代に対応し社会全体で生成される情報収集と発信の仕組みを提供する企業へと発展するために企業理念を刷新。

【企業理念】

人間社会と自然環境からできるだけ有用な情報を集め、
かつ、
人間社会と自然環境にできるだけ有用な情報を発信する仕組みを提供
することによって、
自然環境と調和した人間社会の発展に貢献すること。

3-4. 第2創業期の目指す企業像・事業ビジョン



日本初の専門型インターネットデータセンターとして発足したブロードバンドタワーグループは、創業10年で連結売上高100億円を達成、第2創業期元年と位置付けた2013年6月期に同235億円を達成。そこで、創業20周年を迎える2020年を第2創業期の達成年に！

「スマート・コンバージェンス・ビジネスプラットフォーム事業」の総合企業として、売上高1000億円、営業利益率10%を目指す。

●日本のIT産業の発展を支えるために

- かつて日本はデジタル家電や携帯端末、DRAMなど世界のIT産業の発展を牽引してきた。
- 世界における日本の復権が課題。ネット企業を支えてきたBBTowerの役割を再定義。

●「スマート・コンバージェンス・ビジネスプラットフォーム」事業の確立

- ビッグデータ時代において、IT融合(スマート・コンバージェンス)による既存産業の革新や新産業の創出が期待される。

●売上高1000億円、営業利益率10%企業を目指して

- 日本のIT企業の代表として1000億円を超える企業は、楽天、ヤフー、グリー、ディーエヌエー等、主にBtoC企業。BtoB企業で当社に近いモデルで1993年創業のIIJが創業20周年で1000億円。

3-5. 第2創業期の基本方針と重点戦略課題



【2020年ビジョンを実現するための重点戦略課題】

【重点戦略課題を解決するための具体的施策】

I. コア事業の構造改革

～ 連続的イノベーションの継続 ～

▶コア事業であるデータセンター事業の構造改革による売上・利益率向上

1. ネットビジネス、ビッグデータ市場における業界標準IDCの確立
2. ストレージを核としたビッグデータソリューションの提供
3. 新データセンターモデルへの展開

II. IT融合による新事業の創出

～ 非連続的イノベーションの実現 ～

▶成長エンジンであるファッションビジネスプラットフォーム事業の安定成長・拡大と、新成長エンジンの創出

4. IDC・クラウド事業のグローバル展開
5. スマート・コンバージェンス事業の展開
6. スマート・エネルギー事業の展開
7. 連結子会社BBFのファッションビジネスプラットフォーム事業の更なる拡大

ブロードバンドタワーが行う
データセンター事業の現状

当社データセンターの全体稼働率は90%の状態。

- ⇒ サービスフル稼働中での新規設備導入は困難
- ⇒ 新規設備投資競争への参入は見合わせ
- ⇒ 施策は既存サービスの運用効率の向上策

ブロードバンドタワーの次世代データセンター戦略

Y!

IDC Frontier

×



BroadBandTower, Inc.

「DCの常識を変える」

都心地域連携型データセンターの提案

- ・サーバ管理はリモートで行うため、都心のデータセンターにサーバを置く必要がない。
- ・地方であっても東京郊外並のネットワーク速度
- ・危機管理の観点から東西への分散

企業のコアとなるコンピュータ・データは大手町を中心とする都心へ。

使用頻度の低い大量のコンピュータ・データは **地方** へ

●新データセンター事業モデルの立案・実行の出発点！

3-5. ② グループ全体での海外事業比率の向上

ITのみならず多くの日本企業の海外展開は戦略上必要不可欠な要素となり、今まで以上にグローバル展開を検討している企業のITインフラ構築や運用ニーズが高まりを見せている。

取扱いデータ量の増加と効率的で戦略的なIT戦略需要が予測される中、当社は顧客に最適なクラウド環境を提供し、iDC・クラウドサービス事業のグローバル展開を積極的に推進。

ハワイDRFortressデータセンター

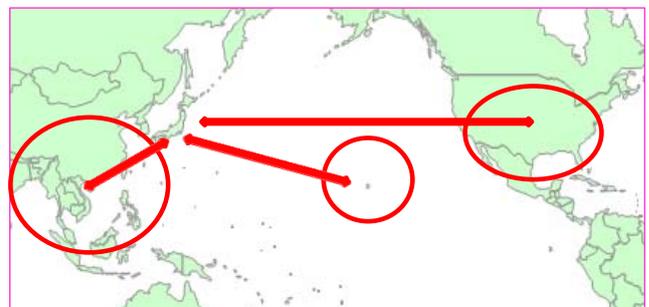
- ・ ハワイ唯一のTier 3レベルDC
- ・ コロケーション/ホスティングサービスを提供
- ・ DRF Cloudサービスを提供
- ・ DRF Storageサービスを提供
- ・ DRF Xchange(IXサービス)

アジア

- ・ クラウド・ネットワークプラットフォームの構築コンサルティングサービスを提供
- ・ CloudStackのインストールと構築

ヨーロッパ・アメリカ

- ・ 2015年までに5つのdistributorビジネスを構築(現在EMC他)
- ・ 海底ケーブル保守サービスを提供



3-5. ② 米Rolling Stone誌に掲載

(参考例は日本語版)



www.drfortress.com

DRFORTRESS 

米国のFortune誌にランキングされる
世界有数の企業を顧客として有している、
ハワイ州唯一のTier3レベル、
SSAE16 Type2 (SAS70) 準拠データセンター。
日本国外へのDisaster Recovery (ディザスタリカバリ) や、
グローバル展開を検討・実施している企業の
インフラ構築・運用ニーズに応えます。
また各種クラウドサービスも提供しています。

サービスのお問い合わせは

DR Fortress, LLC 所在地：米国ハワイ州ホノルル市 代表者：President Fred Rodi (フレッド ロディ) 設立：2006年(平成18年)6月 TEL：1-808-528-7500 (Main) TEL：1-808-528-7519 (日本語) E-mail：sales@drfortress.com URL：http://www.drfortress.com/	株式会社 ブロードバンドタワー DC営業部 所在地：〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東館ビル7F TEL：03-5202-4811 E-mail：sales-dept-dc@bbtower.co.jp URL：http://www.bbtower.co.jp
---	---

DR Fortress, LLC とブロードバンドタワーは2012年に親戚関係事業提携関係を解消いたしました。

BroadBand Tower, Inc. 2013.

25

3-5. ② グループ全体での海外事業比率の向上

連結子会社BBF、中国上海市に完全子会社を設立

中国では一部景気の減速懸念も語られる一方、巨大な人口と購買力の上昇を背景にしたマーケットとしての存在感は、今後益々重要性を増してくるものと見込まれている。このような環境のなか、BBFは中国に完全子会社を設立し、成長著しいマーケットとしての中国国内において、消費者の繊細な動向を直接把握できる環境を構築するとともに、BBF及びブランチ・アウトが日本で培った事業ノウハウを現地で直接展開することにより、事業の拡大を目指す。

BroadBand Tower, Inc. 2013.

26



【特集】食の安全
食品安全犯罪は赦免しない
【中国経済の減速】
中国経済の減速をどう見るか
【中国の飲料水】
中国の飲料水は安全か
【日本人の海外生活】
“月光族”が“人脈長者”に
 劉炳義 日本アピオ株式会社代表取締役社長
環境に適應し、勢いに乗じてことを為す
 叶新華 先端技術株式会社代表取締役



藤原洋
— 編集長インタビュー —



(人民日報海外版)

決済事業への参入

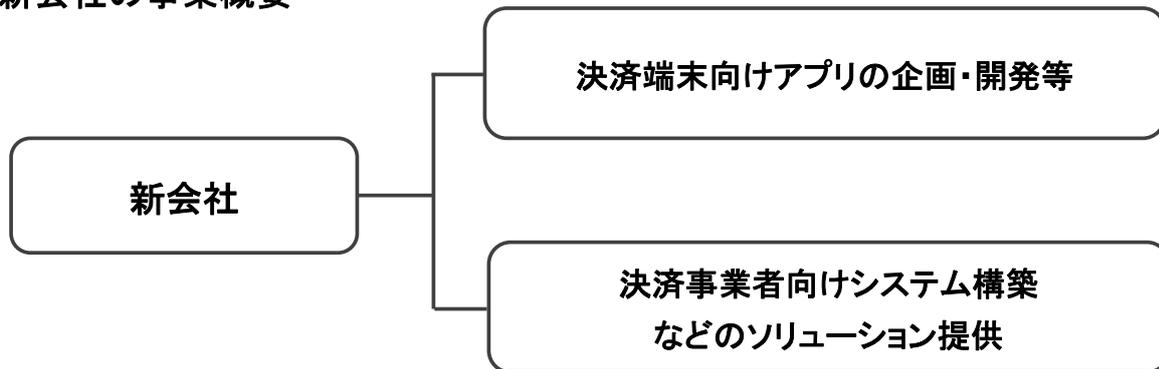
(参入の背景)

EC市場の急成長やスマートフォンの普及に伴い、決済ソリューションも多種多様化している。データセンター事業、クラウド事業の提供を行っている当社として、決済市場の更なる拡大を見越して、決済ビジネス向けのデバイス、アプリケーションやシステム開発等のソリューション提供を行う子会社を設立。

【新会社の概要】

商号	株式会社Lyudia
資本金	5,000万円
事業内容	決済端末機器・決済システム向けにアプリケーションなどソリューションの企画・開発・販売
出資比率	当社100%

◆新会社の事業概要



今後大きく成長が見込まれるEコマース決済やモバイル決済の分野において決済インフラサービスを提供。

山口県防府市において太陽光発電事業を開始

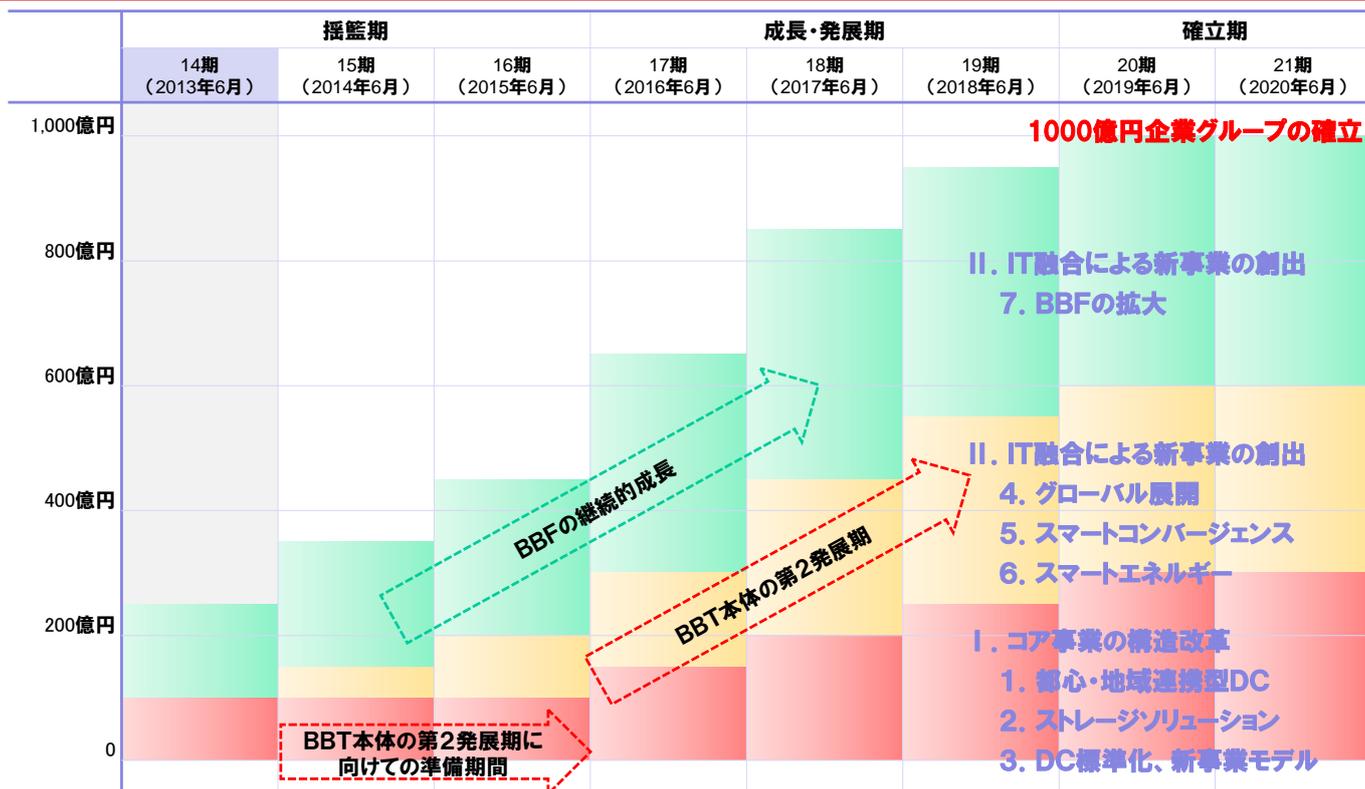
東日本大震災以降、エネルギーや都市・インフラのあり方が変わり始めた。同時に、エネルギーがITと繋がり、私たちのライフスタイルを大きく変えるスマート・エネルギー社会が誕生。このような背景から、当社ではこれまで培ってきた技術や知見がエネルギー分野にも活用できると考え、スマート・エネルギー事業(太陽光発電所)を開始。



IT × エネルギー



4. 2020年ビジョンへ向けての成長プラン



ご清聴ありがとうございました